

## 第3回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会

日時：令和6年8月30日（金）

午後6時～7時30分

会場：諏訪湖ハイツ

コンベンションホール

### 次第

1 開 会

2 挨拶

3 会議事項

(1) 第2回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ

(2) 講演「これからの高校を考える」

講師：鳴門教育大学大学院学校教育研究科 特命教授 藤村 裕一 氏

(3) 質疑応答及び意見交換

4 その他

次回の予定

【日時】 令和6年10月ごろ（予定） 午後6時～7時30分

【場所】 未定

5 閉 会

## 新校再編実施計画懇話会開催要綱

### (目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条令により設置された附属機関ではないものとする。

### (会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

### (構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

### (開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

### 附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

## 岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会構成員名簿

(敬称略)

区分	氏名 (○:座長)	所属等	役職等
自治体	藤澤 正	岡谷市	副市長
	後藤 慎二	諏訪市	副市長
	宮坂 享	岡谷市教育委員会	教育長
	三輪 晋一	諏訪市教育委員会	教育長
	松崎 泉	下諏訪町教育委員会	教育長
産業界	木下 敏彦	岡谷商工会議所	副会頭
	白鳥 和美	諏訪商工会議所	副会頭
学識経験者	○市川 純章	公立諏訪東京理科大学	地域連携総合センター長
地域	窪田 美彦	セイコーエプソン株式会社人的資本・健康経営本部	副本部長
	高林 千幸	岡谷蚕糸博物館 (シルクファクトおかや)	館長
	竹花 顕宏	諏訪地域振興局	局長
同窓会	小松 壮	(一社) 岡谷工業高等学校同窓会	理事長
	増澤 義治	諏訪実業高等学校同窓会	会長
P T A	佐藤 亨	岡谷工業高等学校 P T A	P T A 会長
	芳澤 秀樹	諏訪実業高等学校 P T A	P T A 会長
	笠原 康弘	岡谷市 P T A 連合会 代表	会長
	竹野入将宏	諏訪市 P T A 連合会 代表	会長
小中学校等 関係者	櫻井 洋	諏訪小学校長会 代表	長地小学校長
	河手 正彦	諏訪中学校長会 代表	諏訪中学校長
	高坂慎太郎	諏訪養護学校	教頭
再編対象校	武田 怜也	岡谷工業高等学校	生徒会長
	牛丸 瑤介	岡谷工業高等学校	生徒会副会長
	弓削 俊宏	岡谷工業高等学校	校長
	清水 哲	岡谷工業高等学校	教職員
	小林 愛友	諏訪実業高等学校	商業科代表
	盛 咲穂	諏訪実業高等学校	服飾科代表
	加藤 泰久	諏訪実業高等学校	校長
	松下 明世	諏訪実業高等学校	教職員

### 【事務局】

学校名	氏 名 (役職等)
岡谷工業高等学校	(教頭) 飯島 健二
	(教諭) 御子柴 久雄、原 克明、山口 隆、飯島 昭雄
諏訪実業高等学校	(教頭) 楯 和弘 (教頭)、(定時制教頭) 三間 美奈子
	(教諭) 服田 洋介、小川 淳子、松下明世

	氏名	所属等	役職等
県教育委員会	井出 敦	高校教育課 高校再編推進室	主幹指導主事
	宮嶋 直美	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事
	山崎 巖	高校教育課 高校再編推進室	主任指導主事

## 第2回 岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和6年(2024年)6月6日(木)午後6時から午後7時30分		
場所	下諏訪町役場 講堂		
出席 (敬称略、 ◎座長)	藤澤 正、後藤慎二、宮坂 享、三輪晋一、松崎 泉、木下敏彦、白鳥和美、◎市川純章、高林千幸、竹花顕宏、小松 壮、木村明美、佐藤 亨、芳澤秀樹、笠原康弘、河手正彦、高坂慎太郎、武田怜也、牛丸瑠介、弓削俊宏、清水 哲、小林愛友、盛 咲穂、加藤泰久、松下明世、宮地光希、宮澤佑岳 以上 27名		
欠席 (敬称略)	窪田美彦、増澤義治、竹野入将宏、櫻井 洋 小池 聡 以上5名	傍 聴	6名(内オンライン2名)、報道3社
事務局	岡谷工業高校：飯島教頭、御子柴教諭、原教諭、山口教諭、飯島教諭 諏訪実業高校：楯教頭(全日制)、三間教頭(定時制)、服田教諭、小川教諭 県教育委員会：井出主幹指導主事、宮嶋主任指導主事、山崎主任指導主事		
会議事項	(1) 第1回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ (2) 校地検討会議について (3) 学校・学びの紹介 ア 岡谷工業高校 イ 諏訪実業高校 (4) 学びのイメージに係る意見交換		
当日資料	次第・第1回懇話会まとめ、校地検討部会名簿、スケジュール、グループワーク説明、学びの紹介、席図		

### 主な内容(学びの紹介、学びのイメージに係る意見交換)

会議事項について

(1) 第1回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会まとめ(資料2頁)

事務局(県教委)から説明  
質問、意見なし → 承認

(2) 校地検討会議について

次のア、イについて事務局(県教委)から説明(資料3頁)

ア 校地検討会議の目的および運営、構成員  
イ 第1回会議の開催予定  
質問、意見なし → 了承

(3) 学校・学びの紹介

ア 岡谷工業高校(別紙資料あり)

・スクールミッション/カリキュラム、沿革/専門5学科の学び/キャリア教育/課題研究/卒業後の進路/  
生徒会活動/再編新校に向けて

【質疑応答】

○学んでいて楽しいことは何か→3DCADでの設計やPCで勉強すること  
○インターンシップは製造業が多いか→製造業の工場が多い、大学に行っている生徒もいる  
○生徒会活動の特徴的なことは何か→文化祭で、各学科に特徴を生かした展示をして来客に紹介している

イ 諏訪実業高校(別紙資料あり)

①商業科 沿革/誠実の学び(商業科・服飾科・定時制)/商業科の学び(諏実タウン・検定・各種競技大会)  
②服飾科 好き!をかたちに/製糸のマインド/創造力と・・・今も紡ぎ/夢と自身をデザインする/  
本物にふれる行事/地域や社会の探究とデュアルシステムによる実践  
③定時制 特徴(少人数の環境・学び直し・自分に合ったペース・仲間づくり)/日課/クラブ活動/  
年間行事(生活体験発表会、定通体育大会・校友会活動)/定時制への思い

【質疑応答】

○服飾科の学びは卒業後につながっているか→服飾関係の進学をする人が多い

○学校は楽しいか→クラブが楽しい(定時制)

→自分たちで開発した商品が諏実タウンを通して地域の人に届くのが楽しい  
実践の授業で友達や先生とやりとりしながら勉強するのが楽しい(商業科)  
→小さいころ祖母がプリンセスの衣装を作ってくれた  
今、自分もそのようなものが作れるようになっているのが楽しい(服飾科)

(4) 学びのイメージに係る意見交換 ※グループA~Eにわかれて意見交換を行いグループ代表が発表

テーマ ①それぞれの高校の良いところ

②両校が一緒になることによってどのように変わっていくことを期待するか

#### 【グループA意見概要】

- ①
  - ・両校とも高い専門性があり、やりたいことが明確な生徒が多い
  - ・両校とも教室内の学びだけでなく、地域社会とのつながりの中での学びがある  
諏訪実は地域や企業とのコラボ、岡工は諏訪地域の製造業の一翼を担っている
  - ・岡工はスポーツのクラブが強い
- ②
  - ・より専門性に特化した高校にし、地域の発展に貢献できる学校にしてほしい
  - ・商品の企画を諏訪実が、製造を岡工が、売り方や営業を諏訪実が行う
  - ・授業のコラボレーション、生徒会で一緒に何かできることはないか

#### 【グループB意見概要】

- ①
  - ・専門分野を学び、実質的な資格が取れ、生徒が具体的な目標を持てる（岡工）
  - ・産業界とのつながりが強く、地域の技術を担う人材を育成している（岡工）
  - ・部活動が活発（岡工）
  - ・長野県唯一の服飾科がある（諏訪実）
  - ・地域の人々とともに学び、地域に出て活動することができる（諏訪実）
- ②
  - ・諏訪実の簿記や服飾デザインと岡工のコンピュータを組み合わせて、効率化や新たな学びを期待
  - ・商業と工業の枠を超えた業種の分野を新たに作り出すことに期待
  - ・男女のバランスが良い学校
  - ・起業家を育てる学びに期待

#### 【グループC意見概要】

- ①
  - ・諏実タウンやキッズビジネスなど地域を取り込んでいる（諏訪実）
  - ・服飾科は県下唯一で岡谷シルクの文化を伝承している（諏訪実）
  - ・地域に根差した、地域に求められる人材の輩出が強い（岡工）
  - ・国家資格が取得できる（岡工）
- ②
  - ・情報技術の学習で服飾科のデザインを商品化したり、シルクを環境化学科の学習に生かすなど両校の融合
  - ・製造・販売が学校一つで成り立ち、完成できる
  - ・ワーキングスペースとして、新しい商品を作るモデルになる学校にしたい

#### 【グループD意見概要】

- ①
  - ・5科それぞれに特色があり、伝統と今の技術をとことん深めている（岡工）
  - ・地域企業とふれあい、交わる（岡工）
  - ・部活動が活発（岡工）
  - ・地域とつながり、外に発信していくところ（諏訪実）
  - ・定時制では中学までに学びのリズムを崩した人も学び直しができる（諏訪実）
- ②
  - ・専門科が特化された学びと専門性を融合した学びの両立ができるとよい
  - ・大学と連携し単位取得や、定時制など時間や場所を限定しない多様な学びができるシステムづくり
  - ・岡工にかつてあった機織機で布を作り、服飾科が製品化し、商業科で販売するというような連携した学び
  - ・地域を愛する人の育成

#### 【グループE意見概要】

- ①
  - ・ものづくりに関して地域連携ができている（岡工）
  - ・実践的な学びに取り組んでいる（岡工）
  - ・定時制を有し社会問題に取り組んでいる（諏訪実）
  - ・商品開発から販売を通じ社会とのつながりがうまれる（諏訪実）
- ②
  - ・ファッションショーでの照明を岡工がプログラミングする
  - ・岡工のものづくりと諏訪実の商売がコラボして、諏訪の商売につなげる 総合ビジネススクール
  - ・繊維×ものづくりイベントを通じた社会との連携
  - ・男女間の交流

#### その他

第3回岡谷諏訪総合技術新校再編実施計画懇話会

○日時 7月下旬～8月

○場所 未定

○内容 県内外の事例紹介、多分野からの提言

# 講師紹介

## 1. 職・氏名

国立大学法人 鳴門教育大学  
教員養成DX推進機構長  
大学院学校教育研究科特命教授  
ふじむら ゆういち  
藤 村 裕 一



## 2. 略歴・主な役職・活動等

公立学校教員，行政職，東京工業大学大学院社会理工学研究科内地研究員等を経て現職。

首相官邸の「教育再生実行会議」初等中等教育WG委員，「デジタル化タスクフォース」委員として，今後の日本の教育改革の在り方について大所高所から検討を進め，多い時は月2，3回ペースで文部科学大臣らと今後の教育の在り方について協議してきた。

高校教育関係では，広島県の依頼で全寮制グローバルリーダー育成県立中等教育学校「広島叡智学園」の設立や，札幌旭丘高校の単位制高校化，宮崎県の専門高校改革・学科間連携の助言，岡山県立高校・名古屋市立高校の次世代型教育の助言，・各県のスーパーサイエンスハイスクール・スーパーグローバルハイスクールの助言等をしてきた。

文部科学省では，「中央教育審議会デジタル学習基盤特別委員会」や「CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業」企画評価会議委員や「就学援助事務システム標準化検討委員会座長，教育DXを検討する「教育データの利活用に関する有識者会議」座長代理など，文部科学省・総務省・経済産業省・デジタル庁・特許庁・NHK等で数多くの教育の改革・教育の情報化関連委員会で，数多くの座長・座長代理・委員を務めている。

自身体においては，北海道から沖縄県まで全国各地の都道府県教育委員会・市町村教育委員会の教育改革，教育振興基本計画の策定，教育の情報化・情報教育，授業改善・教育改革，生徒指導改善等の助言に入っている。学力日本一の秋田県の教育改革，いわゆる学力向上マニュアル改訂の助言に2024年度も20回入ることになっている。

身近なところでは，NHKの朝のニュース「おはよう日本」でニュース解説を行ったり，民放のバラエティ番組に出演したりもしている。

第2回岡谷諏訪総合技術新校 再編実施計画懇話会 事後アンケート（運営等について）

意見提言等		
会議 時間	グループワークは必要不可欠の場。コミュニケーションを深める場としても有意義である。一方時間が短すぎた。やむを得ない時間配分だと思うが一考を望む。	
	時間配分が難しく、出された意見の集約・発表が大変だった。	
	もっと時間をかけて話し合いが必要と思った。	
	1時間半だと少し足りないかもしれない。	
	時間がたりないですが、仕方がない。	
	会議の進行（市川座長）がスムーズで的確である。時間通り終了したのが良い。	
	発表時間が短いことと、発表者が時間内にまとまるようにする。	
開始 時間	参加する生徒に合わせた会場、電車の時間に合わせた時間を優先していただきたい。	
会場	会場について諏訪と岡谷を交互に選ぶことでもよいのかと思う。 会場については、両校の校舎を使ってみてはどうか。 可能なら両校での開催機会があってもいいのではないか。	
連携	生徒	多くの生徒からの交流を通じた意見を集約し、統合に期待する意識を関係者と共有することがよいのではないか。 この懇話会では生徒と共に考えることが必要である 懇話会の中で話が合ったように、様々な連携、交流はできることからどんどんやっていけたらいいと思いました。
	地域等	商工関係者など地域からの期待から考えることも必要か。
	先進 事例	総合技術高校の先進校を視察等で学びたい。 世の中の先進事例もふまえ、総合技術新校としての理想像を勉強できればと思う。
	学校 見学	各校の学校見学をしたい。各学校で会議をされたらどうか。
	その他	懇話会のゴールの時期（時間軸）明確にしたほうが良いかと思う。スピード感が必要に感じる。 あくまで前向きな進行でよいと思うが、心配事やマイナス面での意見をすいあげる事も必要か。 魅力ある定時制高校の存続について具体化できるとよい。